

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1962
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.55, No.3 (1962. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	社会思想史研究特集
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19620301--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田学会雑誌

1962年 3月号

社会思想史研究特集

論 説

- 若きマルクスとサン・シモン主義……………平 井 新 1
 ——マルクシズムとフランス社会主義との
 関係に関する研究の一節——
- アダム・スミスとエドモンド・バーク (一) ……白 井 厚 27
 ——その社会観と経済思想をめぐって——

資 料

- ジョン・フランシス・ブレイ (三) ……………遊 部 久 蔵 49
- 初期マルクス研究におけるひとつの問題……………飯 田 鼎 61
 ——フェルダール「一八四八年の革命前夜におけるマルクスと
 エンゲルス」における「真正社会主義」の解釈について——
- マルクシズムのフランス流入に関する一考察……………村 田 光 義 77
 ——ジュール・ゲードの思想的展開——

書 評

- 坂本慶一著『フランス産業革命思想の形成』……………野 地 洋 行 92
- マンフレッド・フリードリッヒ著
 『若きマルクスにおける哲学と経済学』……………金 原 実 97

新刊紹介

55 卷 **3** 号

昭和三十一年三月一日発行
 第三種郵便物認可
 第九〇三号

昭和三十一年二月一日発行
 第三種郵便物認可
 第九〇三号

三田学会雑誌

昭和三十七年二月号

定価 金九〇円 (送料二円)

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 55. No. 2

February, 1962

CONTENTS

The First International and the British Trade Union Movement……………	<i>K. Iida</i>	1
——The Labour Movement and Marxism in Britain——		
The Stages of Economic Development and Income Distribution……………	<i>N. Maruo</i>	23
A Basic Study on Investment Function……………	<i>F. Takahashi</i>	52
John Francis Bray (2)……………	<i>K. Asobe</i>	75
The New Agriculture in Lower Normandy, 1750—1789……………	<i>K. Watanabe</i>	92
Book Reviews		
An Essay on Trade and Transformation, by S. B. Linder……………	<i>H. Fukami</i>	102

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)

Editorial communications to be sent to
 the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
 Keio University,

Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.

Price 90 yen

新刊紹介

尾藤正英著『日本封建思想史研究』	島崎隆夫	105
武田清子編『思想史の方法と対象』	中村勝己	106
——日本と西欧——		
丸山真男著『日本の思想』	石坂巖	108
田村秀夫著『イギリス革命思想史』	寺尾誠	109
——ピューリタン革命期の社会思想——		
E・フロム著『マルクスの人間概念』	由良君美	111

若きマルクスとサン・シモニスム

——マルクシズムとフランス社会主義との

関係に関する研究の一節——

平井新

マルクシズムは十九世紀の三つの大きな思想的潮流、すなわちドイツの古典哲学、フランスの社会主義、イギリスの古典派経済学をその源泉とし、かつ、その構成要素としていわれている。この説明の仕方はすでに久しく行われているところであり、また異論のないところである。

それでは、これらの三つの要素が順次、マルクスに撰取されて、マルクシズムの体系を構成して行ったその過程についてはどうであろうか。

マルクスはまず、当時盛行したヘーゲルの観念哲学の研究に出發してその革命的要素である弁証法をとり入れた後に、フオイエルバッハの唯物論の媒介によって、ヘーゲルの観念的要素を脱皮して、唯物弁証法と唯物史観という独特の世界観に到達したが、これと前後してフランス社会主義を研究して社会主義への信念を固め、最後にイギリスの古典派経済学を学んで資本主義の必然的崩壊と社会主義の必然的到來を實証的に説明することができた。とこのように説明するのが大体これま

若きマルクスとサン・シモニスム